

内閣府青年国際交流事業既参加青年調査

- (1) 名 前：岩岡 ひとみ（いわおか ひとみ）
- (2) 年 齢：43 歳
- (3) 参加事業：第 8 回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」
（高齢者分野、英国）（2009 年）
- (4) 職 業： 特定非営利活動法人全国福祉理美容師養成協会（NPO ふくりび）
東京医科歯科大学修士課程（医療政策学）在学中



■ 応募のきっかけ

高校時代に「**世界青年の船**」の事業に憧れていたものの、結婚と出産により高校を退学したため一旦は諦めました。内閣府青年国際交流事業は参加年齢の上限が 30 歳ですが、29 歳の今が最後のチャンスだと思い立ち、パンフレットを手にしたところ、「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」（以下「コアリーダー事業」という。）を知りました。私は当時、高齢者を支援する NPO を設立したばかりでした。この事業に参加し、NPO 活動の盛んなイギリスで、NPO と行政の連携や事業運営、また高齢者介護の実際の現場などを見て学びたいと考え、参加を希望しました。

事業への参加は、中断したキャリアの再構築のきっかけとなっただけでなく、参加経験を軸とした他への**グローバルな活動**へと繋がっていきました。

どのようなきっかけで「世界青年の船」事業を知りましたか。

記憶が定かではないのですが、英語が好きで海外留学をしたいと思っていましたので、海外関連のキャリアをめざして色々調べたり、先生に聞いたりしていた中で知ったのだと思います。結婚して高校を退学してしまいましたので、その時はその夢は叶いませんでしたが、海外への想いは持ち続けていました。

コアリーダー事業については全く知りませんでした。比較的新しいプログラムだったからでしょうね。2009 年に NPO センターにちらしが置いてあるのを見つけたのがきっかけでした。

具体的にどのようなグローバルな活動につながりましたか。

何か事業に応募したり、申請したりする際に、コアリーダー事業への参加経験が有利に働いているように感じます。経歴の欄に自分のキャリアの一つとして記載すると、次のチャンスにつながっていきました。国の事業の参加者であったという経験のおかげで、他の団体からの信頼度が飛躍的に高まり、いろいろなお声かけをいただけるようになりました。例えば、ブリティッシュ・カウンシルと国際交流基金によるプログラムでは、タイを訪問して社会起業家としてプレゼンテーションをする機会をいただきました。また、別の事業でインドやシアトルでの研修に参加したこともあります。

コアリーダー事業に参加する前の私は、20 代で高校中退という経歴でしたから、内閣府が私の学歴以外のところを見て拾ってくださったことが本当にありがたかったです。**国の事業に選んでいただけたことは私にとって大きな自信となり、新しいことにチャレンジしてみようという心の支え**になりました。

■ キャリアパスに役立ったこと

60 億円の事業規模の NPO の視察などを通して、多角的な視点と広い視野で事業を運営するためのイメージを持てたこと、政策などへの関心が高まったことです。

事前研修で我が国の医療介護政策などについて、改めて厚生労働省の方や大学の先生方から教えていただいたことで、他国との比較のリアリティーが増し、課題が明確になりました。

60 億円の事業規模の NPO とは具体的にどんな組織でしたか。

エイジ・コンサーン・アンド・ヘルプ・ジ・エイジド（エイジ UK）です。2009 年 4 月に、エイジ・コンサーンとヘルプ・ジ・エイジドが合併し、全米退職者協会（AAPP）に次ぐ世界第二の高齢者組織になりました。高齢者分野では、イギリス最大のチャリティ団体で、政策提言も行ってかなりの影響力を持っています。日本ではこの規模の NPO はありません。当時、日本では NPO 業界は創業期にあり、「食べていけない職業」と言われていました。今では、ソーシャルビジネスや事業型 NPO など力のある団体が育ってはきましたが、規模の大きな NPO が合併する等といったことは日本ではあまりありません。英国の NPO では、企業並みのオペレーションがありますし、民間企業や行政で働いていた人が転職して来たり、NPO でしばらく働いた後また企業に戻ったりするなど、人材の流動性が高く、人材のエコシステムがしっかりできています。介護・高齢者分野の視察に行ったというよりは、NPO の経営について学べたのが私にとってはとても大きかったです。

どんな課題が明確になりましたか。

日本では、「NPO＝ボランティア」という雰囲気未だにあります。イギリスではチャリティー・オーガニゼーションとボランティアは明確に区別されています。「稼げる NPO であること」が日本の文化には受け入れられないように思います。しかし、きちんと収益を上げていかなければ、ボランティア・ワークだけでは続かないのです。複合的に資金調達をしていかなければ、課題解決に向けて継続的な組織運営ができないし、雇用を産み出すという点においてもソーシャルインパクトがありません。草の根的な活動で終わってしまいます。事業参加当時、団体を設立して 3 年目で、補助金に頼らず、自主財源のみでどの程度事業の継続ができるのか、インパクトを出せるのか非常に悩んでいた時期でした。イギリスに行って、資金調



ACEVO を視察する

達の方法などについて教えていただけたのは本当によかったと思います。また、当時日本ではまだあまり一般的ではなかった「ビジョン経営」についても教わりました。イギリスの NPO では、皆が目指すべきものがはっきりしていました。その頃の日本では NPO という、退職後に年配の方が「ちょっと何かいいことをする」みたいなイメージがあったのですが、イギリスでは、非常に優秀な方が、それなりによい給料をもらいながら、自分が課題だと思うことにプロとして取り組んでいることに衝撃を受けました。どのようにすれば、日本もイギリスのようになれるのだろうかと思い、イギリスのスタイルを目指して苦労しながらやってきましたが、最近やっと少しずつ形になってきたように思います。

■ 内閣府の事業でしか得られない経験

しっかりとした事前事後の研修と、現地での綿密なコーディネートによって、短い期間で効率よく学ぶことができることです。また、民間では受け入れが困難な行政機関等での研修などもあったことです。

事前事後の研修ではどんなプログラムが印象的でしたか。

厚生労働省の方や大学のイギリス研究をなさっている先生などがいらしゃって、一度自国の制度についてしっかりおさらいくださいと言われました。私自身、活動しながらも我が国の制度はどうだったのか、とあやふやな部分もありました。事前研修を通じて、短い時間だったかもしれませんが、わが国の制度についてレビューしておくことができよかったです。

特に印象的だった行政機関での研修はどのようなものでしたか。

まず、保健省に行って施策等について学び、そのあと実際に行政区単位ではどうなっているのかを学ぶためにタンブリッジ・ウェルズ市を訪問しました。このように、マクロの政策とミクロの政策がどのようにリンクしているのか、国の施策が具体的に現場でどのように実施されているのかを見ることができたことは大変勉強になりましたし、特に印象に残っています。



タンブリッジ・ウェルズの高齢者住宅を視察（本人左端）

■ 内閣府の研修が他と異なる点

様々な団体の研修を受ける機会がありましたが、内閣府事業以外の研修は「矢印が自分に向いている」ことが多かった印象があります。最近のリーダーシップ研修は「自分の在り方」を考えさせるものが多いです。自分に問うという形式が主流で、確かにこの視点は必要だとは思いますが。

一方、コアリーダー事業は、目線が常に「我が国は」というものでした。常に「我が国は」という目線で、より良い未来を創るという使命感を持って研修に臨む姿勢が私は好きでした。**高い視座で、社会のために、国のために何ができるかということを考えさせるものは内閣府事業以外にはありません**でした。視点を上げると全体を見回すことができ、結局、全部つながっていることに気づくということもありました。NPO 活動をしていると、行政や国は決して敵ではないのに、対立しているような構造が見られることがあります。現場でがんばりすぎていると、現場しか見えていないので、周りからの協力が得られないように感じる場合があります。そんな時に、もっと**広い視野で物事を見ることで、助けてくれる団体が現れたり、他者とのつながりを感じたりできるようになります**。毎日普通に生活していると「日本国民であること」を忘れがちですが、コアリーダー事業を通して「我が国は」というのは大切な視点だと考えさせられました。

■ 事業参加経験による影響

事業参加後、様々な大学で講義をしたり、非常勤講師として教える側に回ったり、自身も大学、大学院と進学したり、生涯学習を続けることができている。国際的なカンファレンスや海外での事業展開などにもつながりました。

最近大学院の修士論文でイギリスの事例なども調査することになりそうで、あらためてコアリーダー事業とのつながりを感じています。イギリスには「社会的処方」といって、病気の人に薬ではなく地域資源を処方するという考え方があり、この研究をしたいと考えているのですが、この本場がイギリスなのです。コアリーダー事業に参加してから12年がたちますが、原点に戻ってきたような気がしています。

■ 事後活動について

NPO の活動として、当時は高齢者・障害者を対象に活動を行っていましたが、現在はがん患者の支援など、幅広い層への支援などと拡大・継続しています。大学や企業での講義・講演や書籍出版（4冊）、Forbes Japan での連載でイギリスでの経験を活かした執筆なども行っています。

視察先 NPO の活動に大きな影響を受け、企業や行政、大学などとの連携のイメージが持てたことで、ソーシャルビジネスとして雇用なども産みながら活動継続できています。当時は愛知県でモデルとなるような NPO や団体がほとんどなかったため、**海外の活動を現地で感じることで、エリアのハードルを越えて全国規模の展開ができるようになりました**。

■ 事業参加時の国際的・地域的な人的交流

3年前には団体の部下が同事業に参加させていただき、また他の若手の NPO 経営者などに本事業参加を勧めて実

際に参加する者も増えてきました。参加時に、40 歳を超えたら、団長として本事業にまた関わられるという話を伺い、それを一つの目標にして、キャリア形成を進めてきましたので、参加後 12 年間の学びやネットワークをいかして、ぜひ今後は参加青年を支援する側に回っていきたいです。

事業参加同期とのネットワークや、視察先との交流が今もありますか。

事業参加後、団員と一緒に学会発表をしたり、フィリピンで途上国支援をしていた時には、ボランティアツアーと一緒に行ってくれたりしていました。団員は全国から集まっていたので、団員に会いに行き、地元の社会福祉協議会を訪問したり、活動エリアを視察させてもらったりしていました。

タイに行ったときに会った方は、フィリピンで「ワクワーク」（フィリピンの貧困層の若者が、オンラインで英語を日本人に教えるビジネス）の活動をしていて、一緒にやりませんか誘っていただきました。フィリピンに行ったところ、なんと「東南アジア青年の船」事業の既参加青年の方も関わっておられました。また、シアトルの研修に行ったときには、通訳の方が「世界青年の船」事業の管理部だった方でした。私は船の事業の OB ではありませんが、偶然にも「船つながり」で、IYEO の先輩たちに助けていただきました。「船」に乗ったという女性は、アクティブで活躍されている方が多い印象ですね。

本事業はインプット中心のプログラムが多いですが、事業実施期間中にアウトプットを行うプログラムを行う場合、どのようなものが望ましいと考えますか。

コアリーダー事業の場合は、「高齢者」「障害者」「青少年」といった分野別のテーマや目的が明確にありますが、国際青年育成交流事業（以下「育成事業」）は、そうではなく、どちらかというリーダー養成研修だと思います。リーダーシップ研修では明確なアウトプットやアウトカムはあまり求められず、それが良い点でもあります。ですから、それら二つの研修を統合するとすると、どっちつかずになる可能性があります。リーダーを育成したいのか、あるいは専門知識のインプットをしたいのか、どちらを目的にするかで研修設計は全く異なります。**単純に両者の「いいとこ取り」では無理**があります。しかし、何らかの方法で効果性を高めることは可能かもしれません。例えば、海外への派遣研修と、国内で行う NPO マネジメントフォーラムのような研修をセットで行うように最初からプログラムしておくのはどうでしょうか。

既参加青年のネットワークについては、そのネットワークを通じた様々な活動の場が準備されていますが、目的をより明確にしておくことが、事後活動の更なる活性化に繋がるのではないかと思います。例えば、自然発生的なものに任せるのではなく、最初から何を目的とするのか設計しておくことや最初から目標とする人材をグループの中にアサインしておくことなどの工夫を重ねることによって、今後も更に魅力的なネットワークになっていけばいいなと思います。

社会人になってから海外で勉強できる機会は、一部のエリートを除き、ほとんどないのが現状です。今後この傾向はもっと強まっていくように思います。だからこそ、内閣府のコアリーダー事業は、社会人にとって貴重なチャンスです。

岩岡ひとみ氏プロフィール

NPO 全国福祉理美容師養成協会（ふくりび）事務局長、ヘルパー2 級、美容師。17 歳で結婚出産をし、現在 26 歳となる娘の母。2007 年に要介護高齢者・障害者・がん患者の外見支援をする NPO ふくりびを設立、事務局長に就任。名古屋と東京のアピランス（外見）サポートセンターを毎週往復し、これまでに約 3000 名のがん患者のアピランス相談の経験を持つ。美容業界や医療・介護業界の人材育成の講師を務める。2012 年内閣府女性のチャレンジ賞受賞、第 27 回人間力大賞厚生労働大臣奨励賞受賞、2012 年～2020 年愛知学院大学経営学部非常勤講師、2021 年～東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 医療管理政策学修士課程在学中。